

コントロール アダプター GX-500


取扱説明書

概要

GX-500はコンピューター コントローラーGS-232Bと組み合わせて、G-500シリーズのローターをコンピューターで制御する装置です。
また、GX-500のコントロール端子は、わずかな電流でG-500シリーズのローターを制御できますので、コンピューター制御に限らず、ローターコントローラーの機能を拡張し容易に外部制御することが出来ます。

接続の前に

GX-500を接続する前に、G-500シリーズのコントローラー内部を一部変更する必要があります。

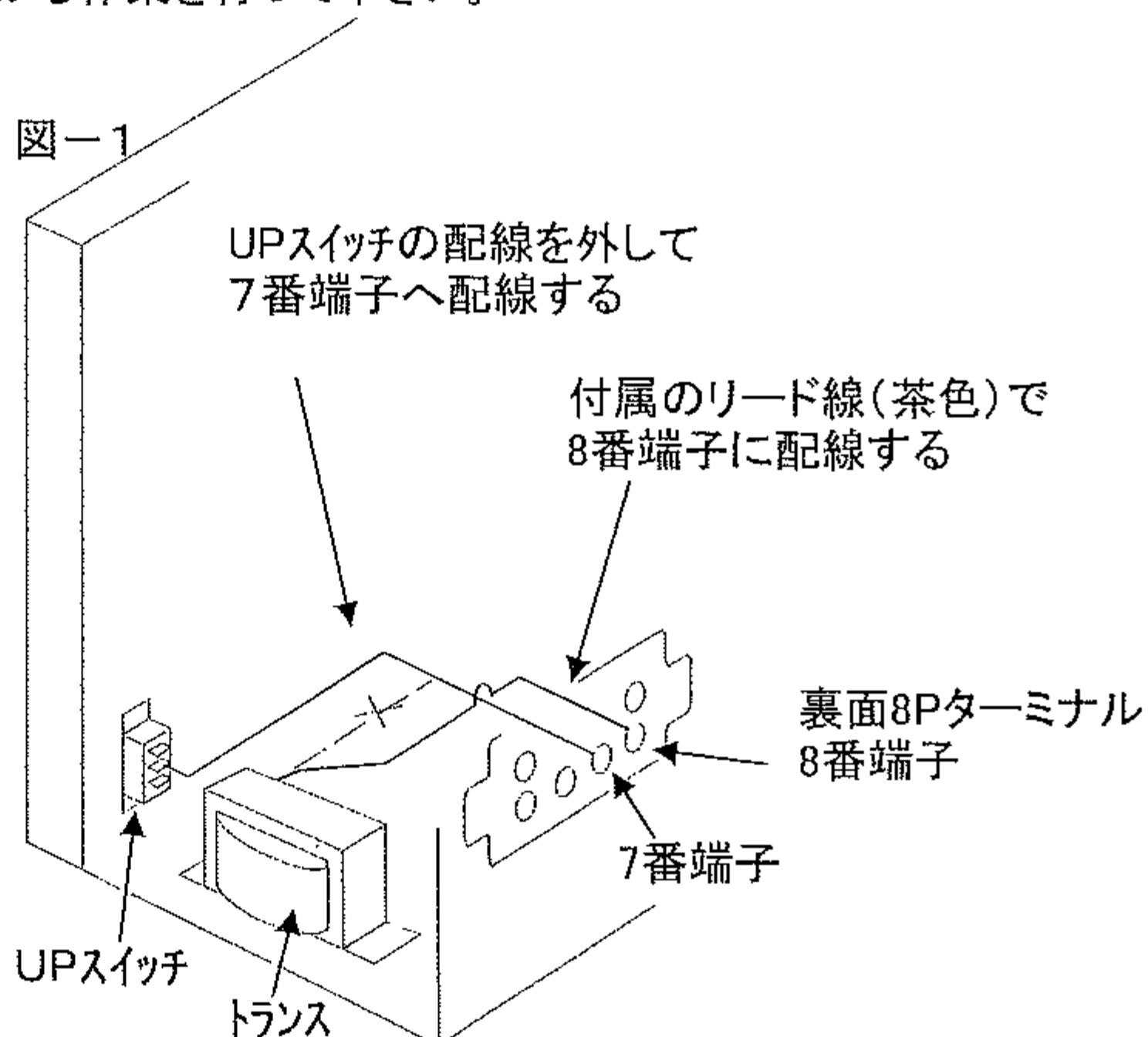
 配線の変更作業を行う際は、必ずすべての機器の電源スイッチを切ると共に、電源コードなどのコード類を外してから作業を行ってください。

* コントローラーの配線変更

1) コントローラーに接続してある6芯ケーブルをはずし、コントローラーのケースカバーを外します。
(ケース下側の4本のゴム足止ネジを取り外すと、ケースカバーが外れます。)

2) UPスイッチの中央の端子から電源トランスへ配線してある線の、トランス側を外し、裏面8Pターミナルの7番に配線を変更します。

3) 上記の作業で外されたトランスの端子と8Pターミナルの8番端子とを、付属のリード線(長さ17cmの茶色リード線)で配線して下さい。
(右図参照)



(トランスより直接リードが出ている場合は、トランスよりUPスイッチへ配線されているリード線を8番に変えて、UPスイッチとターミナル7番とを、付属のリード線で配線して下さい)

4) 改造終了後、ケースカバーをもとにもどします。

* コントローラーとの接続

GX-500の上カバーをはずし、GX-500の基板の上にCONTROLLERと印刷してある8Pターミナルと、改造済みコントローラーの8Pターミナルの同じ番号どうしを1番より8番まで接続して下さい。

接続には8芯ケーブルが必要になりますが、無い場合は6芯ケーブルの一部を切って1番から6番まで同じ番号どうしを接続し、残りは付属のリード線2本にて7番と8番の同じ番号どうしを接続して下さい。(長さ50cmのリード線2本、付属品)

* ローターとの接続

GX-500の基板の上にROTORと印刷された側の8Pターミナルとローターのコネクタ1番より6番まで同じ番号どうしを6芯ケーブルにて接続した後、GX-500のカバーをもとにもどして下さい。

* GS-232Bとの接続

GX-500とGS-232BのEL側端子を付属のケーブルで接続します。

GX-500とDC13.8Vの電源を付属の赤黒ケーブルで接続します。(赤 +、黒 -)
コンピューターからの各種コマンドによりG-500シリーズローターの制御ができます。
(GS-232Bの使用方法はGS-232Bの取扱説明書を参照して下さい。GS-232Aも同様に使用できます。)

図-2 GX-500 基本接続図

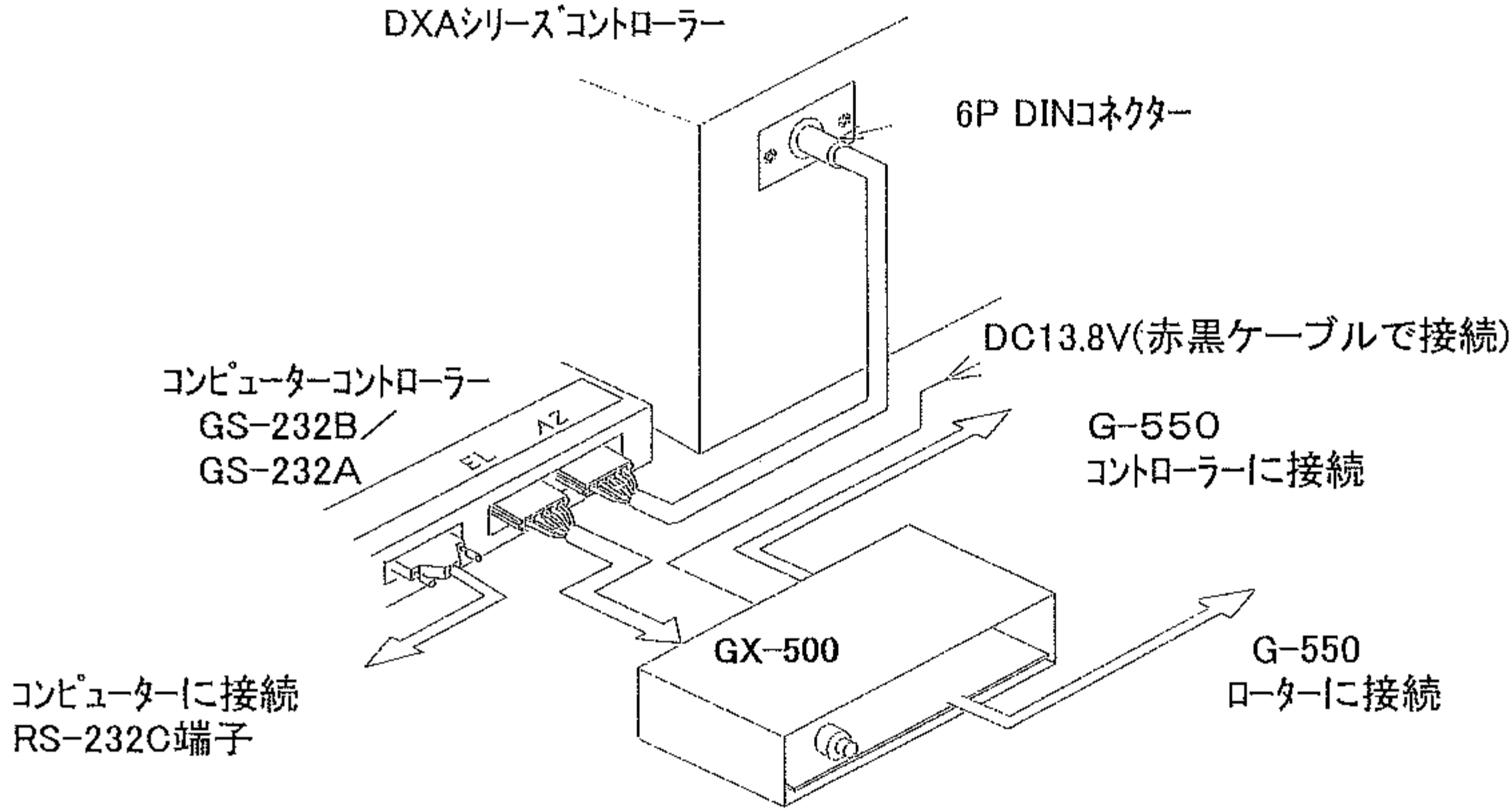
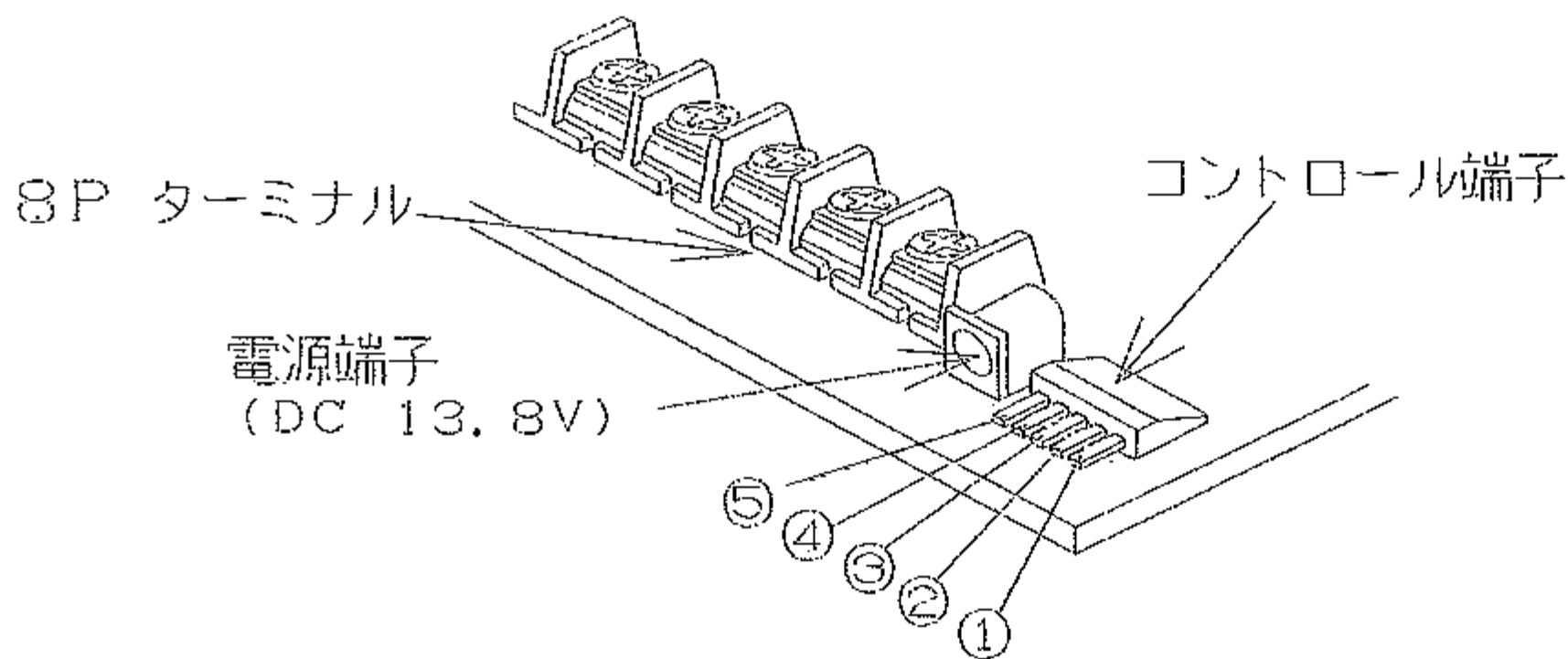


図-3 GX-500 コントロール端子配置

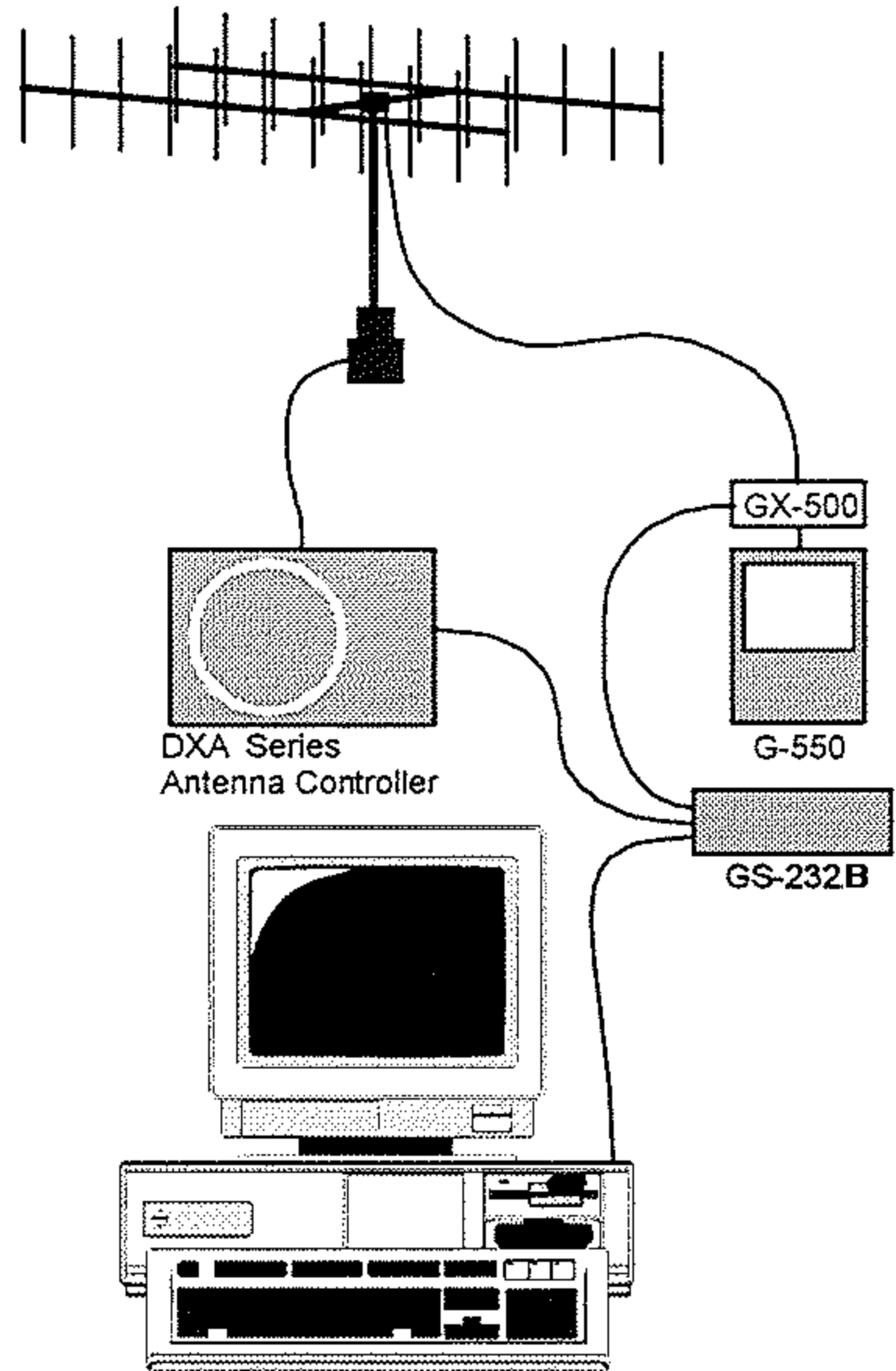
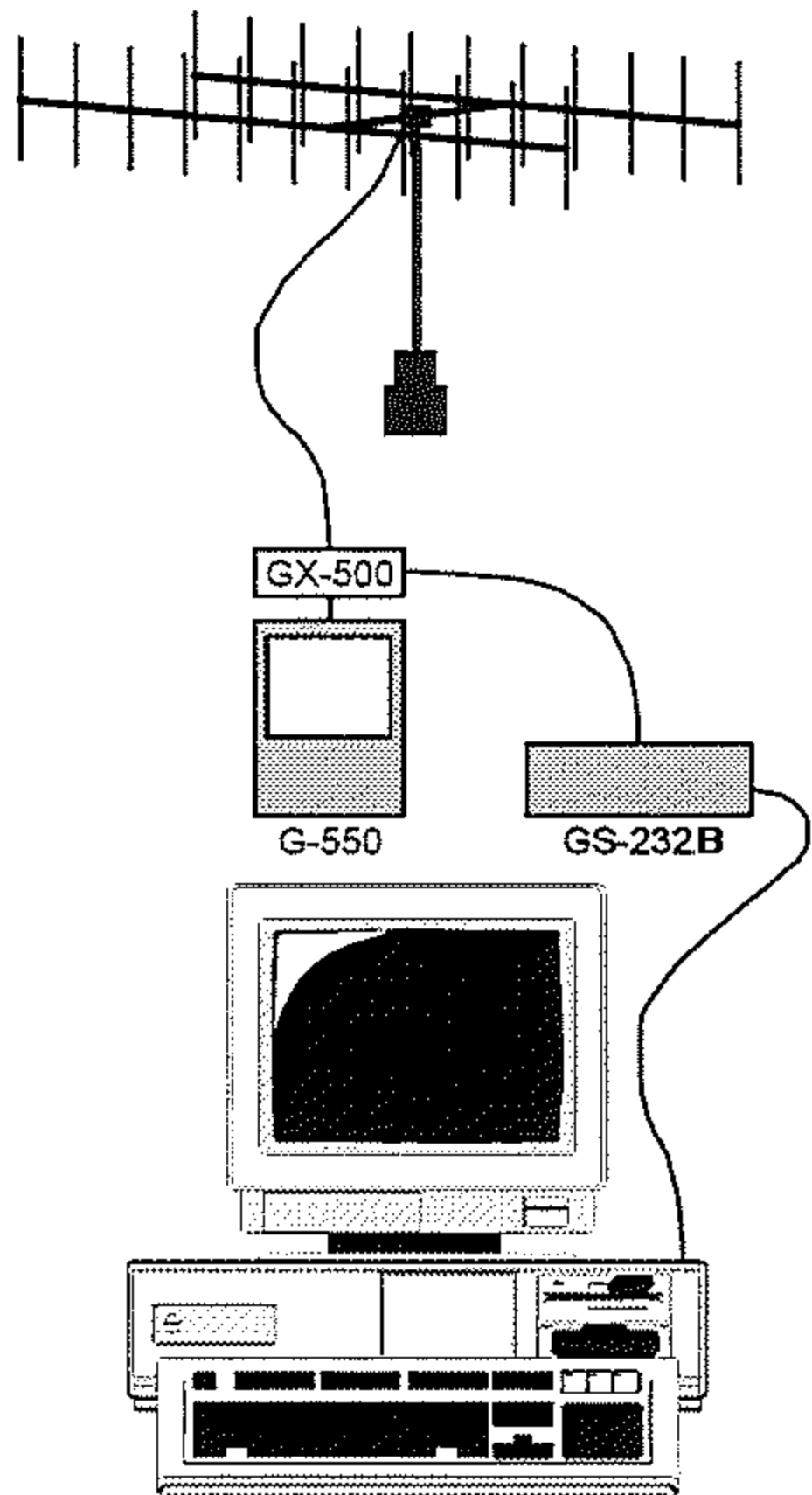


GX-500のコントロール端子仕様は下表のようになっております。
GS-232B以外の機器でGX-500を制御する場合にご利用下さい。

番号	機能	内容
①	UP制御端子	端子番号⑤と接続するとUP回転します 端子番号⑤と接続するとDOWN回転します。
②	DOWN制御端子	
③	未使用	0度より180度の回転角度を約0Vより 4.5Vの電圧で出力します(接続インピーダンスを 20KΩ以上で使用して下さい)
④	角度検出端子	
⑤	アース端子	

注)

改造後もコントローラのUP/DOWNスイッチで従来通りのローターコントロールができますが、GX-500のコントロールが優先となります。従いまして、GX-500のコントロールでローターがUP/DOWN動作をしている間は、コントローラのUP/DOWNスイッチは無効となります。
GX-500をはずして、コントローラを従来の状態に戻すには、コントローラの8Pターミナルの7番、8番間をリード線等でショートして下さい。



GX-500 Circuit Diagram

